

# 幼稚園細目 (續き)

馬場 定 一

## 四、最初の週に於ける自由遊

子供が始めて幼稚園に來た日、それは、新しい、不思議な環境に投げ出された日、そこでは、未だ曾て見たことも無い澤山な小さい人々と密接する處に來た時、其の新しい、時としては六かしい経験が、子供等の親しい家庭の生活からあまりにかけ離れた感じを與へない様に、子供をして之に應じさせる事は大に大切な事である。この最初の週間を自由遊の時間として、是から自然的に且つ漸次に規則正しい課業が開かれる様にする事は一部の保姆の習慣となつて居る所であつて、この週間が次第に發達して來れば遂には普通一般のものとなるわけである。この小さい外來者には、始めから會集に參列させたり、恩物を課したりなどに

て、之に凝りかたまらせる様な事をしないで、保姆は最初の數日間を、子供と知り合になる事や、子供に新しい環境や、子供相互に慣れしめる様にしむけて行く方がいゝ。例へば、ボール、極簡單な積木、糸に貫す珠數玉、其の外二三の簡單の玩具や澤山の繪などを、子供の申出に應じて、近づき易い場合に配置よくならべてやりなどする。又この間に、子供等の中の或る者に、植物に水をやる事、金魚に餌をやる事砂場の手入などの様な幼稚園に於ける色々の義務の指導を始める。適當な時機が來れば保姆はピアノの所へ行つてメロディーを弾いて、子供等が其の周圍に集つて來た時に何か簡單な歌を唱つてやる。若し米國生れの子供ならマザーグースなどが出發點として勝れたものである。それはその言葉が既に子供等に親しまれて居るから。而し

て、尙又俗度言葉に相應して居るメロディーは子供に自然的に且つ容易くわかつて、殆んど未だそれを知らないのに其の歌に合はして行くのである。こんな風にして、拶揆の歌や、又時と場合とに由つてはその必要に應じて極簡單な歌に導いて行く事が出来る。何かボールゲームをする爲に子供が圓形に集る時にはランニングやスキッピング等の如き運動遊戯の初歩にも自然的に導かれる。其の内には訖度お嘶をするに都合の好い機が熟して来る。子供がお嘶を聞きに集つて来る様になれば、もう保姆は、單に幼稚園としての課業が一つ進んで来たといふ丈では無く、自分を子供に結び付ける紐を一層強く編んで居るといふ事になるわけである。かうした方法には何等押付がましい所はなく、與へられた物に對して興味を感じた子供は保姆の手引の中心となり、他の子供は自然的に且必然的に之に引きつけられて行くのである。かくの如くにして終に保姆は、不思議にも思はれず、自分の組の小さい子供の幸福や満足の事を心配する事も無しに毎朝の會集をする事が出来る時が来る。そして朝の遊びや仕事の子供にも保姆にも共に自然的にし

て幸福に發達して行くものである。

## 五、朝の時間の變化

子供を疲れしめないで、休養的な遊の時間ばかりを集める事が出来る様に遊戯を變化せんが爲に、朝の時間を短い間に仕切れることは今日迄の習慣であつた。之は吾々の手數を行ふ上には好い事ではあるが、稍々形式に流れて自由を縮少する事を承認する事になる。即ち保姆の案が餘り多過ぎて子供の發意に従ふ事が尠な過ぎると思ふ。

多くの幼稚園の現状の如くに、目的に相應しない様な室の中に寄寓して居るのは、如何に自由な形式の手順と遂に混雜に陥つてしまふ様な結果になる事を承知して居なければならぬ。私は或る田舎で、立派な設備を持つて居る學校に附設せられて居る幼稚園を訪問した事がある。その幼稚園は可成の大きさの立派な室を占領して居たものではあるが、子供等が輪になるのに互に眩をつき合ふ程で、或るゲームの如きは子供が何人か輪の外に出て、極靜かな活動の爲にでも、のいてやつて傍觀して居なければならぬ程室に

一ぱいになつて居た。だから自由な活動などはこの幼稚園では思ひもよらぬ事であつた。かうした立場にある幼稚園は勿論澤山あつて、疑も無く之は改革に對する防止であるが、やがては公衆の意見と教育的理想との力に由りてその必要を感じしめらるゝに至ることと思ふ。

故に右の如く、止むを得ず我慢しなければならぬ障害があるに拘はらず、保姆はその環境の許す限り朝の時間の改革を始めて、個性の表現と身體的安靜の爲にもつと多くの自由を子供に與へねばならぬ。子供が康作の變化を要求する時にはいつでも、保姆が勝手に定めないうで、恰度子供が家庭に遊んで居る時の様に、子供をして自發的にさせればいゝのである。之は身體運動に對する設備が供給せられるば自然わかる時が来る事柄である。設備の事に關しては二つの障害が起ると思ふ。即ち經費と場所の問題である。前者は擴大せられた恩物の紹介によつて漸次かゝる準備が整へられるので、比較的容易く解決がつくと思はれるが、それよりもつと重大な問題は、適當な設備を容れるのに十分な、そして子供等の活動に自由の機會與ふるに充分な大

さの室を得る事である。之を達するには、絶えず此の題目に就いて議論を闘はず事、及公衆の輿論を變化させらるの外に路は無い。之に對しては、保姆は確呼として働き、母の會に於てその必要を説き、母を貫して此の考のその父に達せしめなければならぬ。

朝の仕事に對して定つた時間割を制定する事が不可能な事か、でないにしても少くとも賞讃すべき事ではない。どんな時間割にしても變化出来るものでなければならぬ。幼稚園の時間は市の異なるに従つて大に變化のあるものであるから、保姆は自分の隨意の時間に適する様に時間割を編まねばならない。

## 六、恩物の時間の延長

今日の時間割で特に改革の必要に迫られて居る點は、恩物を以て遊ぶ時間と、時々庭に出て働くのにあてがはれた時間とを延長する事であると思ふ。擴大した積木を使つた經驗のある保姆は、規定の半時間では、大きい方の子供にその材料を以て十分に樂しませるにも、之を有効に使用さ

せるにも不足を感じる事を屢々感じて来た事と思ふ。子供が疲れて来た時に、休息したり又は身体的發育を助ける所の設備で遊ぶ事が出来る爲に恩物の時間や子供の自由の時間を擴大する事は、單に子供に幼稚園の材料を一層有益に使させる機會を與へるばかりでなく、子供の自然的遊戯の活動によく一致する所の休息及び變化に就いて其の端緒を捉へさせる機會を與へるものである。斯る排列は能力の少い保姆の手を以てしては却つて不秩序を招き又は五里霧中に徘徊せしむる結果となるかも知れぬ事とは思ふけれども吾々は効果の無い事の爲に計畫することは出来ない。制御と任意との間に權衡を保つ事を目的として居る思慮深かき保姆は直ちに此の新らしき排列に適應し、此の一層自由なる方法に於て幸福を見出す事と思ふ。今日既に多くの幼稚園に於ては二つの室が供給せられあつて右と同様の方法が小さい方の子供に實施せられて居る。小さい方の子供は大きい方の子供よりも、もう一層自由が許されねばならぬといふ事を記憶して居なければならぬ。

## 七、小さい組の廣き使用

幼稚園では小さい組を以て仕事をする事の有利な事は能く認められて居て、其理想的排列である事を信するものであるが、而も未だその大部分は實現せられて居ない。之は恐らく學校當局の態度が變化するに非らざれば其實行は不可能な事であらう。併し乍ら考へのある保姆ならば此の大きな組の不幸な状態を極小にする爲には、僅か一人の助手を以てても此の問題を解決する事が出来る。仕事や遊戯の方法を一層自由にするのに子供を三つ乃至四つの組に分けても好い。さうすれば自然子供等に之に着手する大なる機會を與へる事が出来、且つ自ら自重及自制が發達して行く事であらうと思ふ。

朝の歌やゲームの爲に子供が一緒になる事は、皆が一緒になる唯一の時である。併し非常に大きな幼稚園の場合では、小さい團體でゲームをさせると随分満足な結果を得る事が出来る。幼稚園の色々な仕事の爲に子供が澤山に集る事は、正しい意味に於ての幼稚園の躰の總ての目的を破る

ものである。

## 八、遠足の爲に時間割を変更する事

朝の仕事の時間割は其の時間の量が變化出来るものでなければならぬ。過去に於ては餘りに時間割に括られて全く時間の秩序の崇拜者であつた。時間の秩序は勿論吾々にとりては總て學ぶ可きものであるけれども、夫れが爲に子供は幸福を犠牲にしてはならぬ。例へば自然界へ遠足する事は幼稚園細目の大切な部分であつて、其周囲の都合が好ければ、氣候の許す限り少くも一週一回は行ふ可き事であつて、朝の時間割などを顧慮しないで遠足の意味に最も適した時間を使ふが好い。又興味の定まつたものとして例へば鍛冶屋、消防隊等へ遠足する事もある。かゝる遠足は多く朝の始か又は朝の終かに行ふ事が最も有利である。而して都合の最も好い時にかゝる仕事をするのには朝の時間の秩序などの干渉を受ける事はない。他の言葉で云へば實施しなければならぬ仕事は時間割よりも一層大切な事であつて、時間の秩序は其仕事の前には捨てられるべきである。

## 九、試験的細目の價值

該博なる知識、大なる經驗、確實なる直觀、豊富なるお断を持つて居る老練なる保母は幼稚園の仕事が進歩の跡を示し、終に纏つた全體を作りあける事が出来る様に毎日の生きた經驗を利用し、之に應じつゝ、日々の細目を展開して行く事に成功する事は可能であるが、不幸にしてかゝる保母は例外である。經驗の淺い保母が毎週々々注意深く編成せられた細目の助をからずして出發する事は好い事では無くして多くは不幸に終る。此の細目は保母が之に全く依りすがつて其仕事を決定す可き固定的の提議では無くして、單に試験的の細目でなければならぬ。それは保母が毎週又は毎月、其子供を研究し觀察して子供の發達の暗示を記入するものである。幼稚園の進歩、經驗及び子供の興味の命ずる所等の仕事として或は改革を加へ省略を施し乃至は又變更を要すべきものである。毎月末に於て自分の實施した處を比較して見る事は、保母にとりては教訓となる事である。之は翌年の方針の新しい礎を形成して一屬完全なる實

行に向ふ可き捨石となるのである。

## 一〇、暗示的な一般の計畫

此の細目の排列に於て違はる可き一般の計畫は、實行中の仕事を都合よくするものである。例へば

- 一、其月の一般の題目。
- 二、此の題目の許に於て強めらるべき特殊の經驗。
- 三、數箇の經驗と聯絡して發達せしめ得る噺、詩、記憶詩、歌、遊戲及びリズム。
- 四、繪畫及び説明材料。
- 五、遠足、戶外生活。

梗概と云ふ言葉の配下には一つの危険の潜む事を承知しなければならぬ。其危険は他の關係に於て己に述べた處であるが、細目に子供の實際の要求に適した仕事の計畫が餘り少くして、却て知的産物が多くなり易いと云ふ事である。かう云ふ危険はあるけれど梗概は寧ろ若い保姆を規定の排列に保つ必要な案内であると思ふ。若い保姆として最後に注意すべき事は、常に嚴格なる考を持ち、子供の興味と

活動の光を以て細目の進行を注意深く看視して、危険に對して油斷なき事である。

子供と一週間も親しく交渉して見れば、子供等の或る共通の興味を認め茲に其の出發點を見出す事は困難な事ではないと思ふ。子供に接觸する點として子供の家庭生活や、親族關係を用ふる事は近年の稍一般に通じた習慣となつて居る。此の事は或る事情の許に於ては都合の好い計畫であるが、抽象的領域に陥らぬ様注意せねばならぬ。何となれば、幼稚園時代の子供が其精神的の食物とする所のものは活動であつて概括的のものでないと言ふ事を記憶して居なければならぬから。

## 一一、適用の例

或る保姆は子供の家庭に於ける興味や玩具や飼育動物などを其の接觸點とした。玩具は子供が能く幼稚園に持つて來て使つて居た。或る時犬が注意の中心となつたので、保姆は茲で大膽な犬のお噺をする機會を發見した。又或る時は二匹の飼兎が興味の對像物となつて、“Raggylog”の

お嘶が大きい方の子供等に始められた。此のお嘶から母の愛を例證して、人間の家族、リスの家族、鳥の家族、兎の家族及び小猫の家族等の繪に由りて極簡單に家族關係に説き及ぼす事が出來た。灰色のリスは特に子供等の親しんで居た所であつたので、リスの家族のお嘶から親の心遣や子供の從順の考へ等に深い印象を與へたやうであつた。其の保姆は此の程度の發達の子供には、其の諒解の程度は繪とお嘶とで充分であると信じて、家庭關係に關しては更に之以上進行させなかつた。

翌月は、恰度子供の興味が著しく自然界に向つて居たので、之を以て其の月の仕事の計畫を立てた。其幼稚園は其周圍の關係が戶外生活に都合が好かつたのであつた。先づ庭に出る事が其出發點であつた。其所では或る子供は植物から種子を集めて居り、又或るものは幼蟲と幼蟲のたべる木の葉とを探して居た。其の木は其翌日子供等が其のお客の幼蟲に食物を與へる爲であつた。幼蟲は室内に持つて歸つて大きなガラス張りの箱に飼つてあつて、其所で子供等が其繭を作るのを觀察する様にしてあつたからであ

る。日が進むにつれて南の方に飛び去る鳥の群が子供の注意を惹く様になり、其空巢が目に着く様になつて來た。之は單に飛び去る鳥に興味を導くのみならず、冬中残つて居る管の鳥を子供等が見る機會を保姆に供給したものである。何所にでも居る雀は別として、カケス、ハトの二つの著しき種類が觀察された。又鮮かな木の葉は絶えざる興味の源泉であつた。而して遂に木の葉が落ちて木が裸になつた時、保姆は其の大きい方の子供を戶外に連れ出して、何が木の葉を地に飛ばすか、如何にして自然が、冬を貫して新しい木の芽を保護するかを觀察せしむる事が出來た。

是等の種々なる戶外の冒險には規定の時間は置いて無く、自然界に於ける變化に由りて刺激せられたる子供の興味が其の決定素として働いたのである。其月の中頃になつて子供等は其のお庭から僅かばかりの野菜物を收穫した。それから市場に連れて行つて農夫の收穫の更に大なる産物を子供に見せた。一人の小さい子供が如何にして草原にレキをかけて父を助けたか及び之に加ふるに其の他の子供等の仕事が家庭に於て役に立つ事などを話して、此の季節

に於て觀察せられた總ての事柄の意味——冬の用意——を思ひ起させた。

是等の例は、細目が如何に子供の經驗から出發し得るか如何に子供等は、種々なる本質的關係に慣れしむる様に出來るか、又如何に其の經驗を餘り擴大して未だ用意の出來て居ない抽象的事柄を子供に投げつける危険に陥ら無い様にすれば、其年齢と理解力とに應じたる反應を子供に與へる様になる所の活動性を信用し得るかを示すに足るのである。

色々の見界から見て都合の好い境遇にある子供の生活に於て、吾々の接觸點として價值のある事柄を選択する事は比較的簡單な問題である。併し是は文明生活の要求の如何なるものにも應じない様な境遇に居る子供等の組を取扱ふ場合になれば全く異つた提案である。長屋の中で二三の汚れた室が其の家庭であつて、其所では家族の關係は歪められ、家族の生活はさまよふて居る様な家庭の子供に家庭生活の理想を打ち込む事が時として不幸にして、或は知らずに企てられる事であるが、之は其の準備を持つて居ない經

験を子供に與へる事になるので、恰も土の用意の出來て居ない所へ種子を播くのと同じ道理である。

是等の子供の興味は時として悪く變ぜられて居て、其の爲に保母は新しくてより良き興味を起させる様に工夫するの必要を認むるのである。時には是等の子供は食物が不充分で榮養不良に陥り爲に鈍くて愚鈍で保母が適當なる出發點を見出すのに困る事がある。しかも尙是等の子供と雖も、もつと好い境遇の子供と同等の性質も乃至は子供一般の特質も所有して居る事は解つて居るのだから、保母としては是等の子供の爲に擴大せらるべき機會を供給する事である。又彼等に、其の發表する所が遂によく培はれたる植物に於ける健康なる蕾として表はれて來る様に日光の如き溫き愛情と同情とを注ぐことである。此の幸福なる特權を持つ事の出來た保母が果して幾人あるだらうか！

或る保母は暗示的方法に由つて此の種の子供の要求に應じた。此の保母が利用し且つ子供に供へた所の經驗は單に想像し得るのみである。最初の週には其の團體と知り合になる事及び自分も人も共に新しい境遇に居るのだと云ふ事



を子供等に自覺せしむる方法を取つた。是等の子供と一緒に生活する事を望ましくするか或は少くとも一緒に生活するに堪へ得るものとする爲に第一に教へなければならぬ事は清潔であつた。保母はとても清潔といふ事を言葉で説き聞かせる事は出来ないと思へ、何か子供等の心をして清潔の理想に醒めしむ可き具體的方法を講じなければならぬ事を悟つた。サツパリとした顔の人形、それは優しく模造せられた手を持つて居り、汚れて居ない極簡單な衣服の着せてある人形と、汚れて居ないリンネルで仕度せられた人形の寢床とが此の目的に適つたのである。人形は直ちに刺戟を與へた。人形は結構な風姿をして居て、其の總ての良い點は子供等に注意され、其の汚れて居ない手と爪とは子供等の汚れた手と其の黒い爪を例外とする事なしに恥かしめる事であつた。其清らかな着物は皺だらけの着物を整する事に導き其の波打てる髪は亂れて居る毛髪を滑かに櫛削る様に導いた。人形の寢床を拵へる事は奇麗にする事と整頓する事との興味ある課業となつた。此實驗の効果は直ちに得る事は出来なかつたが其價値は漸時にして遠永に認め

られた所であつた。

人形の代りに金魚の鉢が續いて子供等の前に表はれた、それは男の子が何か自分等で氣を付けるもつと特殊の物を持つて缺けて居る事柄に暗示を與へられんが爲であつた。

「私共は斯うして着物を洗ひます」の遊戯は時として「斯うして顔を洗ひます」「斯うして髪を解きます」等に代らしめて良き結果を來さしむるのであつた。

是等の子供に對しては自然界は僅かの事しか教へられなかつた。子供等の運動場は歩道と溝とであつた。公園は一學期に一回の訪問しか許されない程遠かつた。自然の如何なる形象にでも、若し子供が接觸すべき機會が來れば保母はいつでも子供等に之を持たせなければならなかつた。幼稚園に持つて來られた各季節の野生の花は既に美についての課業を授けつゝあつた。場所は飼育動物を容れる事を許さなかつたし、資金には限りがあつたので、始めに僅かの毛蟲が幼稚園に持つて來られて鋭き興味の對象物となつた。次に子供の助けを以て十二本の植物が窓箱に移植された。其の次に公園に遠足した。其れは並大抵の努力では

無かつた。けれども其一回は十分の價值を求める事が出来た。木の實や木の葉が澤山に集められて幼稚園に持つて歸られた、池に泳いで居た立派な鷺鳥、草原に飛び廻つて居たリスは子供の注意と記憶に於て大なる要求をし、而して其の次の日の仕事の出發點となつた。ある玩具の鷺鳥とあひる——慥か日本の玩具——と水を入れた鉢とは其の後長い間心からの喜びを供給した。

月の終りに於て水仙とヒヤシンスの球根が子供等に由りて植えられ、そして其月は終つた。其の間に子供等の生活は稍擴大せられ豊富になつた。保母は子供の興味を喚起するに役立つ材料を探す爲に近所を歩いて二つの貴重なる興味の對象物を運よく捉へた。それは空地に繋がれた牝牛と鳩とであつた。之等の對象物は適當なる步行距離にあつたので自由遊びやお囀や歌などの出發點を供給した。而してかくして感謝祭へ楽しく近づく事が出来た。是等の子供の生活は非常に制限せられて居た爲、幼稚園にとつては、子供等に感謝祭を如何にして意味あるものたらしめる事が出来様か、殆んど見當のつかぬ位のものであつた。然るに幸福

にも保母は、如何に子供等が、「有難う」の日の精神を諒解する事が出来たかを知り、又子供等にとつては天與の喜びであつた所のどんなに澤山なものを其の貧しい小さな生活の中に見出したかを知つて驚いた程であつた。其の祭の日は子供等にも母親達にも共に鋭き喜びの朝を示した。友達の親切を貰して貢獻せられたる、果實に對しての子供等の興味は最近の公園の訪問に由つて明らかになされた。檜の實と同じ様に林檎が木になつた事、芋が土から出て來た事、雨と太陽とが非常に生長を助けた事等は秋の收穫たる是等の果物に對する子供等の喜びから自然的に發達して來た觀念であつた。

十二月には新しい問題が起つた。子供等は殆んど全部が猶大人で希臘教系のものであつたので、クリスマスのお祭は勿論不可能であつた。是等の子供等がクリスマス季節の喜びから除去されなければならぬと云ふ事は保母にとつては實に悪い事に見えた。保母は此の問題に就いて熟考して遂に意を決した、假令子供等はクリスマス氣分の喜びを見捨てなければならぬとしても、其の季節の精神を取り去ら

ぬ様にしなければならぬと。で其結果としてお正月の集りをとつた。而して十二月の月は近所のクリスチャンと同じ様に、お父さんやお母さんへの贈物の爲に忙しい働が全幼稚園に漲つて居る美しい奉仕の精神を見出し得た。

切抜の成績である所の紙の人形は子供の絶える喜びの泉源であつた。而して今やこれが人形の家に發達して行き偶然にも、不幸にして是等の子供に缺けて居た家庭の仕事に就いての考へに其の道を開いた。お室を作る事は先づ積木を以て始められ、此の遊びで人形は澤山に作られ、澤山の客室が必要となつて来た。之等の遊戯は續いて大きい方の子供の仕事になつて来て、厚紙で實際に澤山の道具を作つた。斯くの如くにしてお臺所、食堂、寢臺、居間等は之等の小さい子供の職業的の指で展開された。紙人形の遊びに由つて各室の用途が分つて来た。家が完成した時には此の家は自由遊びの時間に於ける子供の自由の處分に任せられた。かくして家事は一月の月の題目となり而して子供等の活動を貫して展開せられた。

私は是以上此の説明を進めるの必要はないと思ふ。何と

なれば、以上の叙述に由りて示したる細目の展開は、取扱つて居る子供等の要求より自然的に生じたものであると云ふ論點を強むるに足る事と信ずるからである。研究の結果得た細目を子供に強むる事があるかも知れぬが、其れは子供等の毎日の經驗と要求とは何等生きた關係を持つ事が出来ないものであるから従て良い結果を得る事は出来なぬ。保母は皆自分自身の細目を以て仕事をしなければならぬ。さうすれば子供の要求と生活とに一層密接に觸れて來る様になるのみならず保母自身も其の過程を貫して生長するのである。彼女の仕事は斯くの如くにして二重の考に於て活氣付けられて來るのである。其仕事に於ての喜びと興味とは其れに由りて増され而して成功の喜びは彼女のものである。おきまりの方法に従つて、其饑へおのゝいて居る生活に活氣付ける事も無く、又自分を信頼して任かされた子供等の生命を導き且つ間接に之を形作る責任の喜びを受けもしなければ、又果しもしない様な保母の仕事は全く單調にして死んだ様なものである。

奉仕の責任の感を持ち、單に致へるといふ技術を超越した理念を以て幼稚園の事業に入る婦人のみが満足なる永久の成功を果すものである。